

こめぐるわ ほんじょうぐるわ
米曲輪・本城曲輪の成果



石列1：土塁裾部分に列状に出土しました。土塁の崩落防止と曲輪との境界を示したのでしょうか。
石敷4・5：石列4の裾から曲輪にかけて出土しました。本城曲輪への入り口（虎口：こぐち）を考える上で重要な遺構となりそうです。



石敷7：大きさの異なる石を組み合わせ、平坦に敷き詰めています。その形状と古地図との比較から本城曲輪に通じる通路と考えられ、本調査の大きな成果の一つと言えます。



遺物出土状況：常滑の大甕の破片とかわかけがまとまって出土しています。



石列3：L字にカーブした石列で、2列の石組みになる所もあり、境界あるいは水路のような性格の遺構と考えられます。

どぞうぐるわ
土蔵曲輪の成果

石敷2：土蔵曲輪の端から集中して出土しました。河原石を用いているのが特徴です。あるいは土留めの石かもしれません。



石列1

石列1および断面：長方形に区切られたこの石列の内側は下部に山の石を敷き詰め、上部を砂利で入念に覆っています。



財団法人
かながわ考古学財団

〒232-0033
神奈川県横浜市南区中村町3-191-1
TEL: 045-252-8689
ホームページ: <http://www.kaf.or.jp/>

津久井城跡（山頂部） 遺跡見学会資料

主催：財団法人 かながわ考古学財団
共催：財団法人 神奈川県公園協会
後援：神奈川県津久井土木事務所
相模原市教育委員会

平成20年5月17日

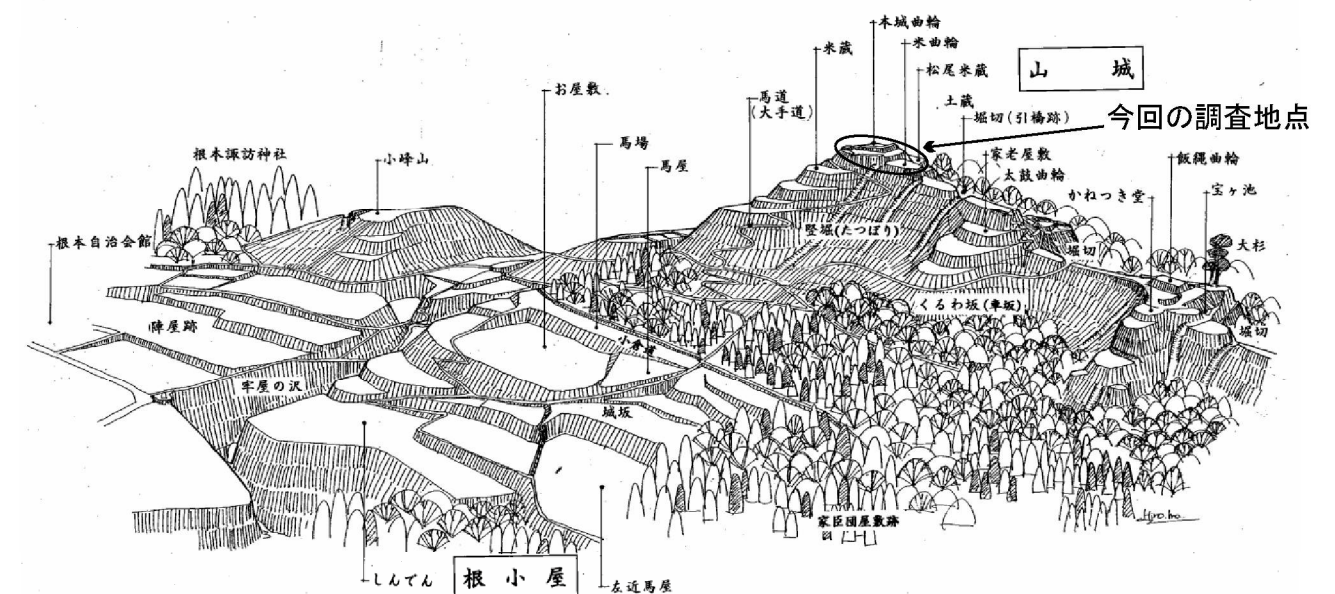
当財団では県立津久井湖城山公園の整備に伴う確認調査として、平成20年4月16日から5月31日まで埋蔵文化財の発掘調査を実施しています。

津久井城は城山の峰のほぼ全体を利用した中世の城郭です。平時には麓で生活し、有事になると山城に登り備えるもので、この様な城郭は「根小屋式城郭」と呼ばれています。今回の見学会でご案内するのは、その中の山頂部に位置する本城曲輪群になります。

これまでの調査から戦国時代の城の遺構が発見され、当時の遺物も出土しました。今日はその一部を紹介します。

津久井城の歴史

江戸時代に編纂された「新編相模國風土記稿」によれば津久井城の歴史は鎌倉時代にまでさかのぼります。しかし、津久井城に関する具体的な史料が現れるのは戦国時代になってからです。甲斐の武田氏が後北条氏と抗争を繰り返していた頃には、津久井城も武田氏によって攻められたことが文献に記されています。16世紀半ばには後北条氏に属していた内藤氏が城主として治めていたようです。しかし、天正18年（1590）、豊臣秀吉の小田原攻めにより、後北条方の城であった津久井城も攻められて落城し、以後廃城となりました。



おおよその年代 紀元前3万年 紀元前1万年 紀元前400年 300年 700年 1200年 1600年 1900年

旧石器時代

縄文時代

弥生時代

古墳時代

古代

中世

近世

近代

※矢印は今回の調査で発見された遺構や遺物のおおよその時期を示しています。